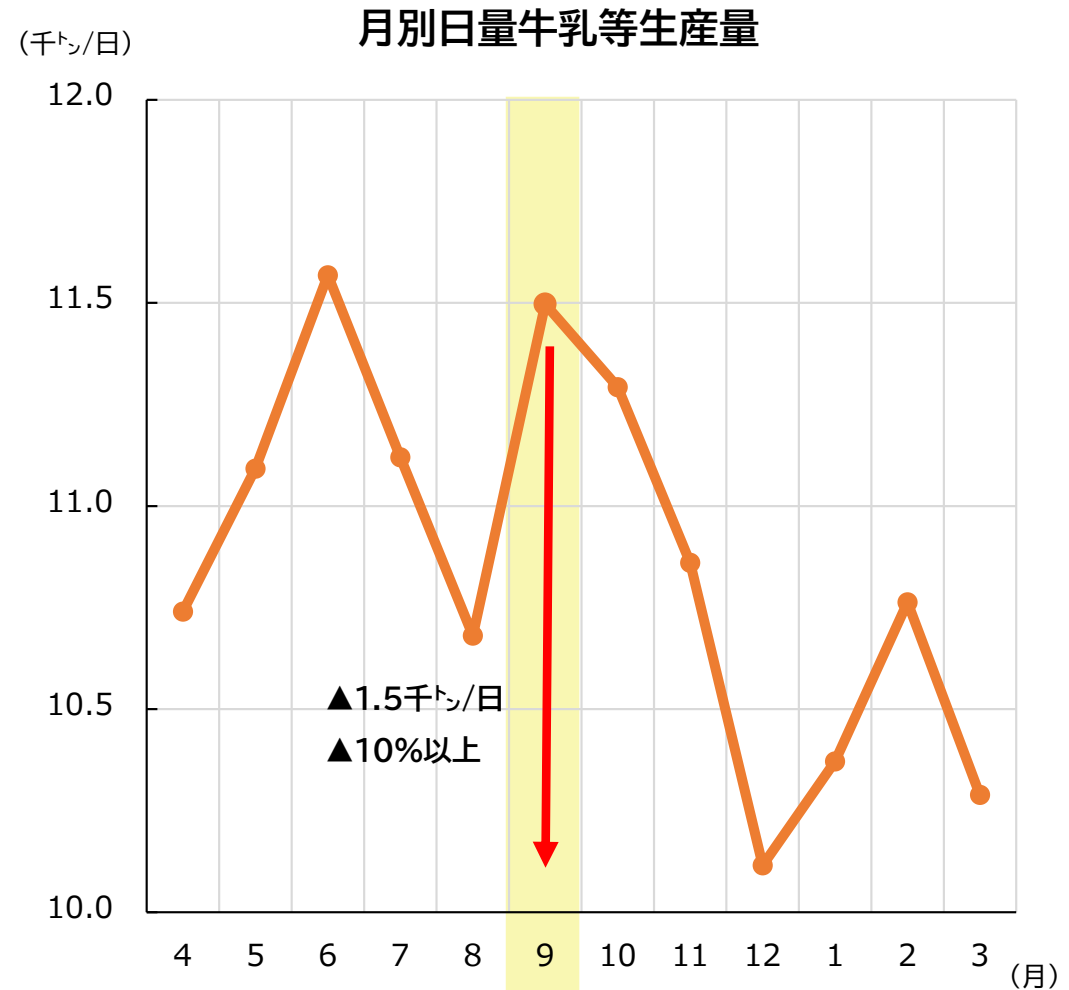
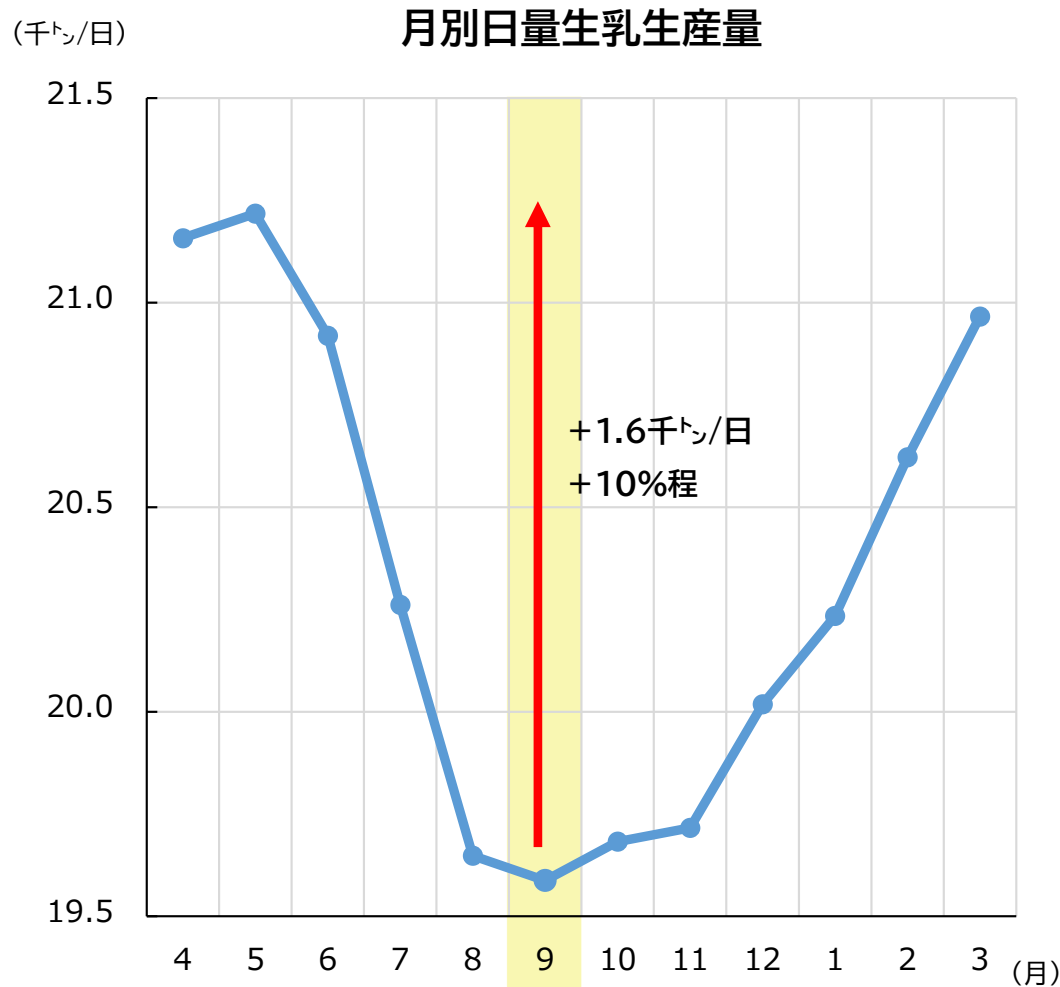


前回までの議論の概要 (牛乳需給の季節変動と生乳需給の調整)

- 生乳、特に牛乳仕向けは需給変動に弱く価格が暴落しやすい。
- 牛乳の需要変動分は主に北海道の指定団体を介してバター・脱脂粉乳に仕向けており、これによって牛乳仕向け価格の暴落を防いでいる。
- また、バター・脱脂粉乳については、関税措置等により無秩序な輸入を防止することで、国産バター・脱脂粉乳の価格を安定させ、バター・脱脂粉乳で需給調整しやすい環境を整備している。

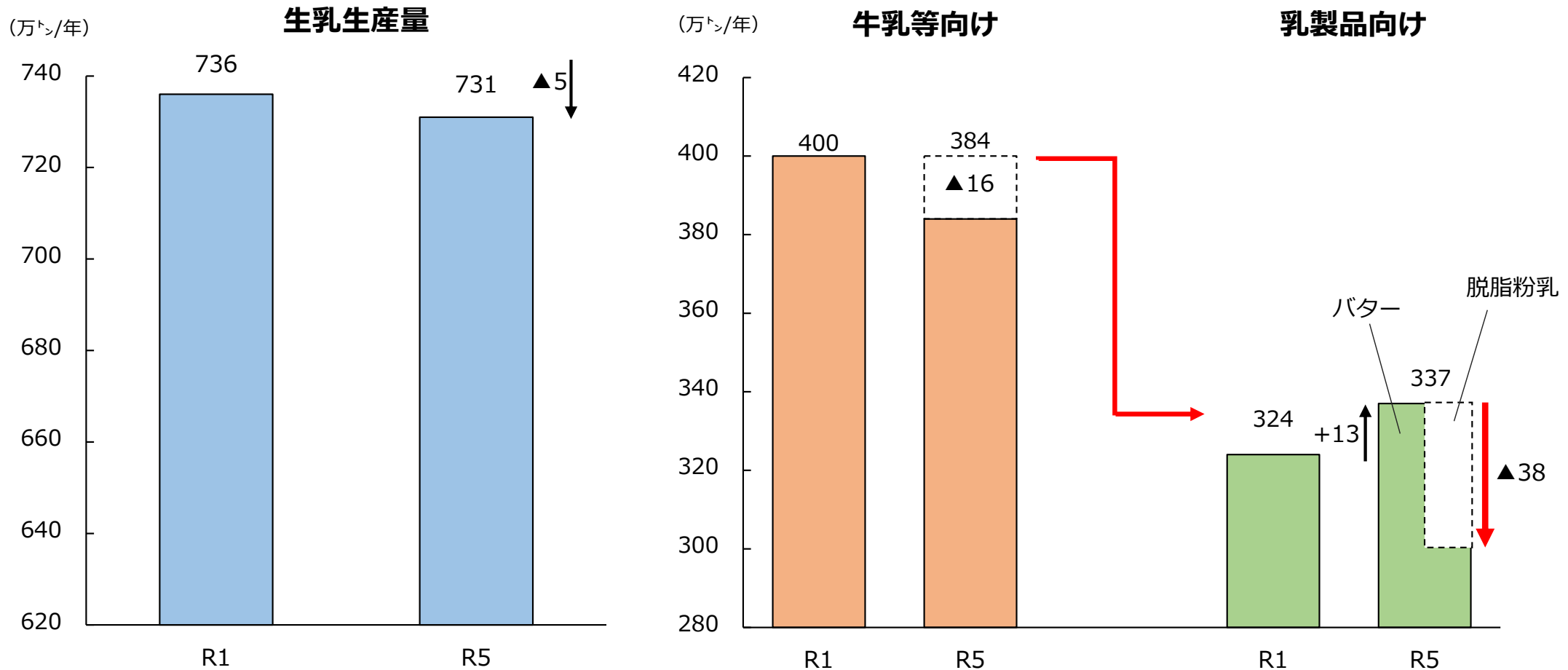
生乳需給調整の基本的な考え方と課題① ― 季節変動 ―

- ・生乳生産と牛乳消費量は気温と相関しており、需給は9月前後に逼迫し、他の期間は緩和するサイクルを繰り返している。
- ・牛乳の需要期に安定供給するためには、不需要期を中心に生乳のバター、脱脂粉乳等への加工が不可欠。



生乳需給調整の基本的な考え方と課題② ー消費構造の変化ー

- ・生産体制の構築には時間(増産には3～5年、減産も急にはできない。)を要することから、この間の牛乳の需要変動分はバター、脱脂粉乳等で調整している。
- ・ここ数年、脱脂粉乳の需要のみが低迷しており、対策により需給調整機能を維持している。



- ⇒ 今後、人口減少により需要が減少していくことが確実な中、生乳需給についての全国的な課題(牛乳需要の確保、脱脂粉乳需要のみ低迷など)について、改めて、関係者間で共有・認識し、協調して取り組んでいくことが重要。
- ⇒ 牛乳の消費減少や脱バ需要の乖離は構造問題であることから、脱脂粉乳の在庫対策だけではなく、牛乳や脱脂粉乳の需要開拓にも注力していく必要があるのではないか。

まとめ

- 牛乳向けの生乳生産を行っていても、夏場の需要期に万度に生乳を供給しようとするれば、不需要期には必ず供給過剰となる。供給過剰は、廉売競争につながる可能性。

また、今後見込まれる人口減少がそのまま牛乳需要の減少に結び付いてしまい、生乳生産を減らそうとしても、生産は急に減らすことは困難であるため、供給過剰が継続し、廉売競争につながる可能性。

- これらの牛乳需要の変動分は、いずれも主に北海道の指定団体を介して脱脂粉乳・バターに仕向けて調整しており、これにより全国的に牛乳仕向け価格の暴落を防いでいる。こうした中、ここ数年は、脱脂粉乳需要のみが低迷。対策により需給調整機能を維持している。

- 今後、人口減少が見込まれる中、牛乳の需給変動に起因する生乳需給についての全国的な課題(牛乳需要の確保、脱脂粉乳・バター需要の乖離など)について、改めて、関係者間で共有・認識し、協調して取り組んでいくことの重要性が高まっている。

第2回情報交換会(2/15開催)での議論の概要

- 牛乳の適正価格は、需給調整コストがすべてのメーカーの製品に反映された上で、適正な競争が行われた結果として形成されるべきと考える。
- 飲用向け乳価は一昨年から2回改定されたが、プライベートブランド(PB)等の廉価品の存在は交渉を困難にさせた要因の一つであった。
- 廉価品には、製造コストや流通側の価格の設定方法など、複合的な要因がある。
- PBは、メーカーにとっては一定量製造することでトータルの牛乳コストが下がる面もあり、PB自体が悪いわけではない。
- PBも2度の乳価改定により、価格の底上げがなされている。
- 生産現場で余剰となっている一部の生乳を安く買い取り、安価な価格で販売しているという問題もある。
- 年間契約に基づく生乳の安定取引が重要ではないか。
- 牛乳に限らず様々な食品が値上げする中、小売りでは競争が激化している。他店と差別化を図るため、コモディティの典型である牛乳についても生産者から生乳を直接購入して生産者限定とするなど、価格訴求だけでなく、オリジナルのPB商品の開発が進んでいる。
- 適正価格の議論については、小売価格はいろいろな状況で動くものであるため、酪農家の乳価に関して行われるべきと考える。
- 小売価格の引き下げ圧力が酪農家の乳価の引き下げ圧力となるので切り離すことは難しい。
- 消費者が、今の可処分所得で買える限界は必ずあり、生産者の論理だけで小売価格を上げたり、ニーズを増やすことは極めて難しい。

- 牛乳向けの取引が主体であっても、**乳製品加工による需給調整はどうしても避けられない**話であることは共有された。
- **牛乳や脱脂粉乳などの需要拡大をどうしていくか**、ということについても課題として共有された。
- 全国的な需給の安定は、牛乳向けの取引を主体とする事業者も含め、全国レベルで協調して取り組んでいく必要があり、現在の脱脂粉乳の在庫対策に限定せず、**何ができるか議論を継続していく**こととする。

第3回の議論の対象



価格に係る議論は
次回以降